



かけはし

第202号
2026年3月発行

発行：峡南教育事務所
教育支援スタッフ(地域教育担当)

南巨摩郡富士川町鯉沢771-2
TEL:0556-22-8154
FAX:0556-22-8144

HPからも御覧になれます。(QRコード)



南巨摩合同庁舎(合庁)

峡南地域教育推進連絡協議会

第二回理事会(書面開催)



令和七年度峡南地域教育推進連絡協議会第二回理事会を書面開催しました。

- ・一号議案 令和七年度 事業報告(見込み)
- ・二号議案 令和七年度 決算報告(仮決算)
- ・三号議案 令和八年度 役員(案)
- ・四号議案 令和八年度 事業計画(案)
- ・五号議案 令和八年度 教育相談リーフレット(案)

右の各議案について役員・理事の方々から書面表決書を提出いただき、全員の賛成をもって可決されました。各町におかれましては、役員の輪番・予算の負担について、ご確認いただけますようお願いいたします。教育相談リーフレットについては、新学期当初から利用できるよう、早期に各学校へPDFのデータを配付いたします。ご理解・ご協力をよろしく願います。

役員の方々のみならず、地域の多くの方々にお力添えいただき、令和七年度の事業を無事に行うことができました。誠にありがとうございました。来年度も、関係団体と協力し、地域の皆様と共に学びの場を提供してまいります。

目次:

峡南地域教育推進連絡協議会 第二回理事会(書面) ことぶき勸学院 活動実践全体発表会	1
一食分の米で命を救う ～アフリカ飢餓救援活動～ 留学生による国際交流 【身延山高校・身延中学校】	2
総合学科発表会【身延高校】 沖縄県具志頭小学校とのオンライン交流【下山小学校】	3
来入児一日入学 【睦合小・栄小】 スマホ教室 富士川町 南巨摩合同庁舎 エレベーター増築工事について	4

ことぶき勸学院 活動実践全体発表会

峡南教室2年生 発表「沖縄から学ぶ 平和をつなぐ」



一月三十日(金)に、県立文学館講堂にて、県内六教室の一・二年生が一堂に会し、ことぶき勸学院活動実践全体発表会が開かれました。各教室の二年生が、自分たちで決めたテーマに基づき、講義聴講、班別協議や現地視察等を行い、その成果をスライドにまとめ、工夫を凝らした発表を行いました。

なかでも峡南教室の二年生の発表は、「沖縄から学ぶ 平和をつなぐ」をテーマに、「平和を次世代に伝え残していきたい」という強い思いを感じさせた素晴らしい発表でした。二年生は、これまで2年間にわたり平和を主題とした朗読劇に取り組み、昨年の6月には、教室担当の今村弘樹先生と平和学習の指導担当である高野裕裕先生とともに実際に沖縄を訪れ、戦跡を巡り、現地の人々と交流しながら戦争と平和について考えを深めてきました。また、青洲高校や身延山高校の生徒たちと交流し、若者たちに自分たちの言葉で「平和」の大切さを語ってきました。当日は、こうした経験に裏打ちされた確かな内容に加え、自主的に集まっては何度も繰り返し練習の成果が遺憾なく発揮され、聴衆の心に強く訴えかける完成度の高い発表となりました。

二年生は間もなく卒業を迎えますが、この発表は二年生にとっては勸学院の良き思い出の一つに、そして聴講していた一年生にとっては目指すべき目標となったことでしょう。発表に携わられた皆さん、ありがとうございました。



各教室の発表テーマ

- 甲府峡東A…山梨の伝説から学ぶー未来へ語り継ぐ
- 甲府峡東B…山梨におけるグリーンエネルギー
- 中北…中北地域の戦争遺跡
- 峡南…沖縄から学ぶ 平和をつなぐ
- 北都留…「文明のあかり」をもつたハツ沢発電所
- 南都留…神が宿る山 富士山ー富士山信仰の歴史をたどるー



今年度最後の「かけはし」となりました。昨年の4月から約1年間、この「かけはし」の取材で峡南5町の様々な場所に赴き、学校や地域の方々から貴重なお話をうかがいました。山梨に久しく暮らしてしながら気づかせていただいた1年となりました。取材にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。来年度も、引き続きよろしく願っています。

一食分の米で命を救う

アフリカ飢餓救援活動



「愛の一食で地球の明日を救おう」この合言葉のもと、1984年に当時の嶽南教育四者会（PTA連合会・校長会・教頭会・山教組南巨摩支部）によって始まったアフリカ飢餓救援活動は、今年で四十二年目を数えました。今年度は、いわゆる「令和の米騒動」の余波を受け、この活動も実施の可否から検討されることになりました。しかし、山梨県では、これまで40年以上（全国で最長）にわたって活動を継続してきた経緯や活動の意義などを考慮し、今年度も実施することに決まりました。

活動が始まった1984年当初は、嶽南地区の小中学校のみで行われていたこの飢餓救援活動も、現在では県内全域の小中学校に呼びかけられ、昨年度は、全県で225校の小中学校から4837.2kgの米と152万5285円の募金が集まりました。今年度は昨年の十二月二日に、嶽南教育会館にて、嶽南と北杜の児童生徒連絡協議会（児生連）や有志の児童・生徒たちが集まり、嶽南教育四者会の方々とともに、集めた米の詰め直しと、輸送用トラックへの積み込み作業を行いました。



嶽南教育会館の杉田孝輔さんによると、今年度は米価高騰のためか、米の集まりが例年よりも少なかったが、それでも約3.8トンの米が集められたとのこと。嶽南児生連の代表生徒からは「集めた米はとても重かったが、みんなで力を合わせて運ぶことができて良かった。国際的な活動に参加する機会はありませんので、このような機会に携われて良かったと思う」といった感想が聞かれました。



集められた米は、海上輸送によりアフリカに運ばれ、その後陸路にて2月上旬にはマリ共和国に到着する予定です。（募金は主にこの輸送代と倉庫代に使用されます）今頃は彼の地の糊口を凌ぐ人々のもとに届き、命をつなぐ一助となっていることでしょう。

これからも、この活動が継続され、日本の子どもたちにとって「食料の大切さ」や「生命の尊さ」について学ぶ良い機会となるとともに、地域の小さな善意が世界の平和に寄与する優れた実践例として認識され、さらに支援の輪が広がることを期待します。

留学生による国際交流

【身延山高校・身延中学校】



十二月十八日（木）に、ドイツから身延山高校に短期留学中のチョングラーディ・レオさんが、身延中学校を訪れ、生徒たちと交流しました。この交流は、身延山高校と身延中学校とのコラボレーションによって実現したものです。



レオさんが訪れたのは2年A組の教室で、この日は「英語」と「食」を組み合わせた特別授業が行われていました。最初に、英語の国名探してウォームアップを行ったあと、レオさんが、自作のスライドとワークシートを用いて、自己紹介とドイツの紹介を行いました。授業が始まる前は、非常に緊張している様子でしたが、いざプレゼンテーションが始まると、なめらかな日本語と英語を用いて、生徒からの英語による質問にも丁寧に答えながら、ドイツの地理や言語、料理など幅広い内容について紹介を行っていました。

生徒たちは興味津々の様子でした。授業の後半では、身延中学校の生徒たちが班ごとに、日本の食文化を英語でレオさんに説明する活動が行われました。すしや納豆などについて、表現を工夫し、ALTの先生に発音を確認してもらいながら、一生懸命にレオさんに日本食の魅力を伝えていました。



授業が終わると、レオさんは生徒たちと一緒に給食の準備を行い、食事を楽しみました。この日のメニューは、ドイツ風ポテトサラダ、ザワークラウト（キャベツの漬物）、グリーラッシュ（牛肉の煮込み）、アツプルシウトウルーデル（リングゴとシナモンの焼き菓子）というドイツ料理でした。これらは、一ノ宮先生がレオさんから事前に聞き取った料理を、生徒たちが食べやすいように日本風にアレンジしたものだそうです。



レオさんに続いて、身延中学校の栄養教諭である一ノ宮先生がドイツの食について説明を行いました。ドイツは冬の寒さが厳しく、野菜のとれない時期に備えて、保存の利くじゃがいもを使った料理や塩漬け、酢漬けの保存食、ソーセージなどが作られてきたことなどが話され、生

授業の2日後には母国への帰途につきました。帰国の直前に、日本での思い出がまた一つ増えたことでしょう。短時間ではありましたが、楽しみながら互いを知ることができ、素晴らしい国際交流となりました。



総合学科発表会

【身延高校】



二月五日(木)、身延町総合文化会館において、身延高校・総合学科発表会が開催されました。進学型総合学科高校である身延高校では、年間を通じて様々なキャリア教育を実施しています。この発表会は、九つある中高連携事業の一つで、一年間の取組を振り返るとともに、その学習成果を広く周知することを目的に開催され、今回で十三回を数えます。

身延高校のキャリア教育は『ドリムプロジェクト』と呼ばれ、一年次は「夢の発見」、二年次は「夢の育み」、三年次は「夢の実現」をキーワードに、生徒の自己実現を目指し、教科・進路学習や探究活動が行われています。特に昨年度からは総合的な探究の時間に「バイタリティ探究」が導入され、「答えのない課題に対して、問いを立て、調査・考察を行い、他者との意見交換を経てまとめ、発表する」という一連のプロセスが重視されています。今回の生徒の発表からも、その学習の成果が十分に感じられました。



一年次は「夢の発見」をテーマに、短時間でもいいパンを作る方法、教員の負担軽減について、バスの運転手の今といった、就きたい職業に対する強い憧



憬が感じられる発表でした。二年次は「夢の育み」ということで、虐待をなくすには、試験で力を出すにはといった進路希望に加え、日常の関心事や現状に対する疑問に基づき発表しました。三年次は「夢の実現」のテーマ通り、すでに進学先が決定し、夢を叶えた二名の代表者が発表しました。「食文化の変化が日本人の健康に与えた影響とは?」「小学校教員になるために」と題した2つの発表は、三年間の探究的な学びと自身のこれまでの経験が見事に結実した素晴らしい内容で、発表を聞いていた後輩や中学生にとって大きな学びと刺激になったと思います。

今年度は、代表者の発表に加え、休憩時間にホワイエとロビーを利用した展示やポスターセッションが行われるなど、この会自体が回を重ねるごとに発展していると感じました。また、非常にスムーズな会の運営は一年生が担当しており、発表のみならず、会の運営全体からも、身延高校のキャリア教育が充実したものであることがうかがえました。



沖縄県具志頭小学校とのオンライン交流【下山小学校】

くしま

一月二十日(火)、身延町の下山小学校にて、沖縄県の具志頭小学校との平和学習交流会がオンラインで行われました。

具志頭小のある八重瀬町(旧具志頭村)には、太平洋戦争で命を落とした山梨県民を悼む「甲斐の塔」があります。この「甲斐の塔」は、身延町(旧中富町)出身の故山中幸作さんが私費を投じて慰霊塔を建立した偉業を引き継ぎ、昭和四十一年に建てられたものです。

下山小では、「甲斐の塔」が建つ八重瀬町の具志頭小学校との交流を続けており、今回のオンラインによる平和学習交流会もその一環として実施されました。交流会には、下山小の5年生と6年生、具志頭小の6年生が参加し、全体ではじめの会を行った後、ブレイクアウトグループに入り、3つのグループに分かれて実施されました。



最初に具志頭小の児童たちが戦争について調べたことを、班ごとに発表しました。沖縄戦の様子、学徒隊やガマでの集団自決など、平和祈念公園資料館で得た情報などをも

とに、イラストや写真を用いて説明し、自分たちの感想を述べました。

下山小の児童たちは、山梨県や身延町について、また下山小の紹介などを行い、甲府空襲についても発表しました。



互いの発表の後には、「身近に戦争経験者はいるのか」「町に戦跡はあるのか」「戦争のことを継承していく課題は何か」といった質問が相互になされました。また話し合いの時間では、下山小の児童から「平和を守り続けていくために何ができるか考えましょう」と呼びかけがあり、それぞれの学校の児童同士が質問し合い、平和についての学びを深めていました。

下山小の平和学習で講師を務める高野裕先生は「今年の交流会は、発表するだけでなく、聞いて感じたことを質問し、それに答えるという意見交換ができており、年々進歩していることがとてもうれしい」と感想を述べられました。

子どもたちが友好を深めるとともに、戦争の悲惨さを知り、平和に対する意識を高めるこのような取組が、今後も長く続いていくことを願います。

来入見一日入学 「睦合小・栄小」



二月三日(火)に、睦合小にて「来入見一日入学・保護者説明会」が行われました。南部町では、来年度から睦合小と栄小が統合され、南部小が開校となります。そのため、今年度は、両学区の来入見・保護者を対象に、南部小が設置される睦合小を会場とした合同での実施となりました。

保護者説明会では、学校生活や入学までの準備について、学校側から丁寧な説明が行われ、保護者の方々は熱心にメモを取りながら耳を傾けていました。

一年生の教室では、児童たちが来入見のために、「たのしいがっこう」という会を開き、来入見と一年生がペアになって、歌やゲーム、お絵かきなどを楽しんでいました。



○×ゲームでは、「給食の準備は自分たちでするか?」「毎日、家でする勉強(宿題)があるか?」といった問題が出され、来入見がゲームを通じて小学校での生活の様子を理解できるように工夫されていました。



会の最後には、一年生が折り紙で作った「ななぶしょうがっこうでまってるね」というメッセージ入りのプレゼントが手渡され、来入見たちは皆大喜びでした。一年生からは「緊張したけど、楽しんでくれて良かった」といった感想が聞かれ、「一年先輩の頼もしさ」が感じられる会でした。

スマホ教室

富士川町



二月十二日(木)と十九日(木)に、富士川町民会館にて、スマートフォン(以下スマホ)の購入を考えている方やさらに便利な使い方を知りたいという方を対象に、公民館講座「スマホ教室」が行われました。

十二日は「スマホを使ってみよう」をテーマに、スマホという機械を知る、スマホの使い方、カメラの使い方という3つの項目について講師から丁寧な説明がありました。初心者向けということでしたが、内容は、講師曰く「重要なことなのに、スマホを買うときにはほとんど説明されないこと」が中心でした。「なぜスマホを使える人であっても、初心者の質問には答えることができないのか」といった興味深いお話もあり、どのレベルのユーザーにとっても、学びになるお話でした。

十九日は「スマホの賢い使い方」という応用編の講座でした。最初に、スマホを使う重要な準備として、アカウント管理とパスワード管理についてのお話があり、「アカウントは会員登録と違って」「パスワードは事前に考えておく」といった講師の言葉に、参加者はメモを取りながら真剣に耳を傾けていました。講座の最後には、生成AIを利用した情報検索を体験し、参加者の皆さんは、自分のユーザーレベルが確実に上がったことが実感できたようでした。



両日とも、講座終了後にも、講師に熱心に質問している受講生が多く見られ、この講座に対するニーズの高さがうかがえました。

おしらせ

南巨摩合同庁舎

エレベーター増築工事について

南巨摩合同庁舎にて、エレベーター増築のための工事が始まりました。これまで本庁庁ではエレベーターが未設置のため、高齢の方や体が不自由な方にとって、大変ご不便をおかけしておりました。

この度エレベーター増築により、合庁のバリアフリー化が進み、来庁される皆様にとって利便性が高まることを期待されます。

工期は十二月までを予定しており、工事期間中は、駐車場の制限や一部通行しづらい箇所が発生するなど、ご不便をおかけする場合がございます。車いすをご利用の方、足の不自由な方などにつきましては、職員が案内いたしますので、入口のインターホンにて職員にお声がけください。

皆様には長期にわたり、ご迷惑をおかけすることになりますが、工事完了までご理解・ご協力をぜひよろしく願っています。



一年間、「かけはし」をご愛読いただき心よりお礼申し上げます。また、情報提供、取材へのご協力等、誠にありがとうございます。これからも峡南地区での様々な教育活動や各施設の地域連携活動等を紹介し、峡南地域の素晴らしさをお伝えしていきたいと思っております。引き続き、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。